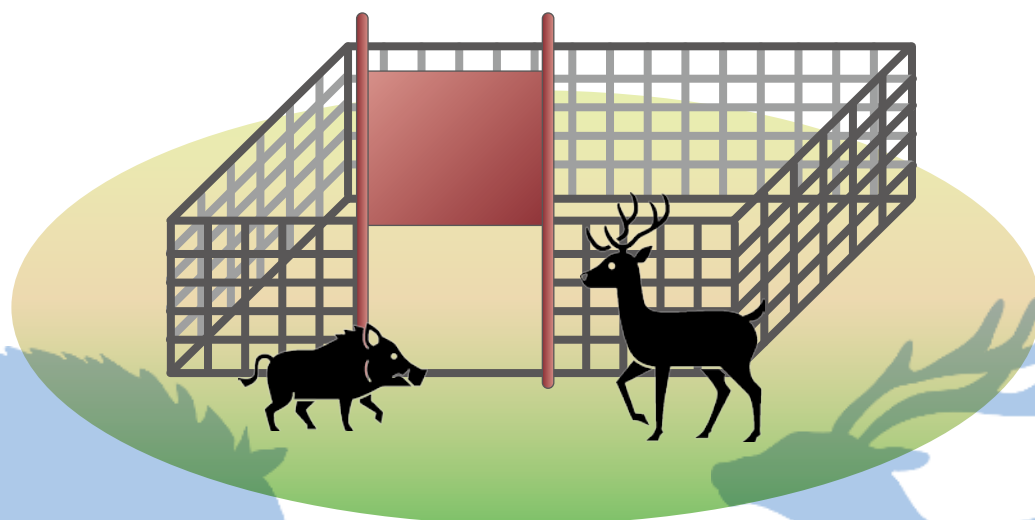


AIやIoTによる、人材育成も可能な スマート獣害対策の技術開発と 多様なモデル地区による地域への 適合性実証研究

研究成果報告集



目次

はじめに 研究の内容

●研究・開発の全体像	1
中課題1 AIとIoTによる多様な檻・罠の管理システムの開発	
(1) AIにより餌付けを自動で制御する基礎システムの開発	2
(2) AIを用いた多様な檻・罠の遠隔・自動総合管理機器の実用化	4
(3) AIを用いた大型檻の遠隔・自動総合管理システムの実証と課題抽出	6
中課題2 広域の野生動物管理、地域での被害対策を効率的に進めるためのマクロとミクロの新たな獣害GISシステムの構築	
(1) マクロ、ミクロ双方の可視化と共有が可能なオープンGISシステムの開発	8
(2) 広域管理と被害対策に必要なデータ収集とシステムの課題抽出	10
中課題3 持続的な被害軽減のための次世代型防護柵の技術体系構築	
(1) 通信機能を有するスマート電気柵の開発	12
(2) 劣化したフェンスや金網を機能回復・強化する資材の開発	13
中課題4 持続的な農林業被害リスク「ゼロ」地域育成のための手法・モデルの開発・育成	
(1) 既往捕獲技術のスマート化によるシカの低密度維持手法の開発	15
(2) ローカルベンチャーによる大型檻での捕獲と利活用のビジネスモデル構築	16
(3) 効果的かつ効率的な柵とわな設置・管理技術の開発	17
(4) 営農組合、住民組織等と中核狩猟者による広域での被害軽減と維持のモデル構築	18
●まとめ	20

スマート獣害対策技術の開発と、地域への適合性実証研究コンソーシアム

研究代表者：山端直人 [兵庫県立大学]

構成員：兵庫県立大学、鳥羽商船高等専門学校、(株) アイエスイー、三重県、(国研) 農研機構、
(株) 末松電子製作所、(国研) 森林総合研究所、Pacific Spatial Solutions (株)、エーゼロ (株)

本研究は生研支援センター「イノベーション創出強化研究推進事業」の支援を受けて行いました

ISBN978-4-600-00951-9

